

## 第三者研究会での意見の概要及び意見に対する対応状況

<p>1. 第三者研究会の名称、開催状況</p> <p>名称：「都市環境施策の社会的・経済的影響の定量評価に関する研究」研究会</p> <p>開催状況 第1回研究会 開催日：平成14年 9月 9日(月)          第2回研究会 開催日：平成14年11月25日(月)          第3回研究会 開催日：平成15年 2月 6日(木)          第4回研究会 開催日：平成15年 3月24日(月)</p>	<p style="text-align: center;">研究会メンバー</p> <p>中口 毅博（環境自治体会議環境政策研究所所長）          吉田 朗（東北芸術工科大学デザイン工学部          環境デザイン学科助教授）          兵藤 哲朗（東京商船大学流通情報工学課程助教授）          森本 章倫（宇都宮大学工学部建設学科助教授）</p>
<p>2. 第三者研究会での意見の概要及び対応</p>	
<p style="text-align: center;">意見の概要</p>	<p style="text-align: center;">意見に対する対応状況</p>
<p>趨勢型・都心居住型・副都心型の3パターンで調査しているが東京を副都心型にする研究では、あまり効果が無いという結果が出ており、最終的な結論では、コンパクトシティにした際の有利点・不利点を明示すべきである（森本）</p> <p>安全性についてだが、この研究では防災が中心になっている。市民生活における安全性には様々な要素があるので、きっちり明記すべきである。</p> <p>1人あたり住宅の広さが考慮に入られていないのではないか？（兵藤）</p> <p>総合評価についてだが、全てを統合したものをつくるのは難しいだろう。環境・経済・生活の質のそれぞれの個別指標を評価すればよいのではないか？（森本）</p> <p>相関係数等を用意して適性の把握を行っておいた方がよい。最終的には重みをつけて考えては如何か？（吉田）</p>	<p>仙台都市圏を対象としていることを明記し、本研究対象地域における調査結果であることを明記する。また、3つのパターンのそれぞれの結果について、有利点・問題点を明示する。</p> <p>安全性についての説明を明記する。</p> <p>一人あたり住宅面積を経済モデルにより、推計し、その数値を生活の質モデルに返すことを可能とした。</p> <p>それぞれ個別に評価するとともに、各評価値の偏差をとり、リーダーチャートにて統合を行った。</p> <p>今回の研究では各モデル間の相関関係を完全に把握することは出来なかったが、各モデルを構成する変数同士の関係を把握することで、今後の研究に活かしたい。</p>

